

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 11 章 37～54 節＞

1 (37) ファリサイ人や律法の専門家とイエス様との関係は？

イエス様を死に追い込んだ人々ですが、ここを読むと元々はそんなに仲が悪くなかったことが分かります (37、45、13:31 から)。それだけに両者の違いについても考えさせられ、いつの時代の信仰者も気をつけなければならない大事なことを教えられる個所です。

2 (38-44) 他人の姿に目を光らせるようになったら要注意。その逆を。

神様に向かう際に自らを清めること、神様に感謝の捧げ物をする事、そのために聖書に記された決めごとを守ることは何も間違っていない。しかし、他人のその仕方がどうかを見つめて非難するようになるなら、神様を覚えながら生きる喜びは消え失せますし、神様も悲しまれるのです。私もかつて洗礼を受けて間もなくして同じようになり、その間違いに気づかされたことがありました。洗礼を受けて、なにか人を裁けるようになったかのように思うのは大間違いなのです。自分もまた神様に罪赦されて生きている存在であることは今も変わらないからです。では、どのように生きたら神様は喜んでくださるのでしょうか？ イエス様は私たちが間違いに踏み入ってしまうのは、「正義の実行と神への愛をおろそかにしているからだ」(42)とされています。ここで「正義」は、この世の正義から考えるのではなく、聖書の神様が示された姿から考えなければなりません。すなわち、神様が私たちを赦して下さった愛を重んじ、隣人にその愛の実行を目指しなさいとされているのです。

3 (45-54) イエス・キリストが聖書の知識、深い神の愛を解く鍵。

ファリサイ人と律法学者は聖書の神様のことを人々に教える役割を担った人たちでした。しかし神様に感謝して生きることを教えるより、「～してはならない、しなければならぬ」と、戒めばかり伝えて人々を神様から引き離す存在となっていたのです。イエス様は「知識の鍵を取り上げ、自分が入らないばかりか、入ろうとする人々をも妨げてきた」(52)とされています。ここで「知識」とは憐み深い神様についての知識であり、その「鍵」とはイエス様のこと、イエス様を通して神様についての知識が開かれることです。しかし、彼らは神様が与えて下さったイエス様を受け入れないばかりか、殺してしまったのです。ルカはルカの時代の教会の姿を問いながらこの資料を記したのだと言われている。私たちも今、自分自身に問いかけながらこれを読みたいと思います。